

教員養成における幼稚園領域「環境」の実践的指導

杉本 良一*

Practical Teaching for Newly Revised 'Environment' in Kindergarten Teacher Training

SUGIMOTO Ryoichi

1 はじめに

平成2年度より新しく改訂された幼稚園教育要領が本格実施されている。改訂された理由は、地域環境や社会環境が変化し、幼児期にふさわしい生活体験がしにくくなっている状況や、今後の社会の変化に対応できるようにするためである。この教育要領では特に幼稚園教育は環境を通して行うことをその基本として強調している。また、この基本と関連して、幼児期にふさわしい生活を展開されるようにすること、遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること、幼児一人一人の特性を生かした指導を行うことという3点を重視している²⁾。

さらに、幼児が行う活動に対して、従前では、幼児に経験させることが望ましい活動を、教師があらかじめ考え、幼児に経験させるという考え方がとられてきたが、この場合には、幼児の主体性や一人一人の特性に応じることができない。そこで、幼児が直接種々の環境と関わることにより、興味や関心を抱いたり、また、自然や社会の環境から、幼児が活動を自発的に行うさい、望ましい活動となるよう、教師が援助するという発想に切り替えていく必要がある³⁾⁴⁾。このような観点から、大学の授業においては、単に教え込みの講義をするのではなく、幼児の発達に即した適切な指導や援助のできる授業を工夫する必要がある。

幼児の疑問を解決するさい、一緒に解決したり、援助できるためには、学生自身が身近な環境について様々な知識や技能を持っていなければならない。すなわち、身

近な環境と関わる活動の種類、幼児の発達と季節の関係、身近な動植物の知識、身近な物の材料や工作の知識や技能、さらには安全への配慮、環境整備などである。

今回の幼稚園教育要領では今までの6つの領域が5つに整理され、領域「自然」が、小学校の生活科につながる「環境」という領域になった。

領域「環境」のねらいは、次の3項目からなっている。

- (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味や関心を持つ。
- (2) 身近な環境に自分からかかわり、それを生活に取り入れ、大切にしようとする。
- (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする。

さらに表1に具体的な領域「環境」の内容の10項目を示す。

表1 幼稚園教育要領 領域「環境」の内容項目
(平成元年3月文部省告示)

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (3) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (4) 身近な動植物に親しみをもって接し、いたわったり大切にしたりする。
- (5) 身近な物を大切にする。
- (6) 身近な物を使って考えたり試したりするなどして遊ぶ。
- (7) 遊具や用具の仕組みに関心をもつ。
- (8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- (9) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- (10) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

*鳥取大学教育学部理科教育教室

キーワード：教員養成、幼稚園教育、環境の保育

本教育学部では「自然の保育」が「環境の保育」という名称に変わった。この講義では理科的な内容を中心に、自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うという教育要領のねらいを、学生が体験的・实际的に理解できるように、製作や実習を中心とした活動的な授業を実施した。

現在の学生は、入試等におけるペーパーテストなどの暗記再生型の学習には優れているが、直接手を動かして実験や製作活動をさせると極めて不十分なことしかできない実態があり、直接体験の不足が著しいと考える⁵⁾。従って、この講義では理論的なことは簡略にし、時間の大部分は創作や製作など、実践的な内容を中心とした。

2 講義・実習の内容

講義は平成2年度後期、及び平成3年度前期それぞれ7.5回で行った。受講した学生数を表2に示す。小学校教員養成課程、養護学校教員養成課程を中心に延べ43名が受講した。

表2 「環境の保育」受講学生

	平成2年度後期	平成3年度前期
小学校教員養成課程	15名	4名
養護学校教員養成課程	13名	11名
合計 (男子)	28名 (2名)	15名 (0名)

授業時間100分のうち、毎回40分程度講義し、残りを製作や実習とした。環境の内容は10項目提示されているが、1単位15時間の講義なので全ての内容を網羅できない。講義の内容を資料1に示す。また、そのうち、次のような具体的活動や製作実習をした。なお、これらの内容については文献6)～11)を参考とした。

- ・ダンゴムシと遊ぶ—ダンゴ虫を見つけ、割り箸で作ったレース場で競争させたり、糸を張って、その上を網渡りさせるなどして、一緒に遊び、終わった後は元の場所に帰してやる。
- ・カイワレダイコンを育てる—かいわれ大根の種を水栽培で愛情をもって育てる。水をやるのを忘れてしまうと枯れてしまう。
- ・熱帯魚用の数石の造形—大学構内や河原に転がっている石や日曜大工店に売っている熱帯魚などの飼育用の数石を用いて、画用紙の上に並べ、思い思いの造形をする。
- ・落葉による造形—大学構内に落ちている落ち葉を拾って、その色や形を生かした造形をする。(平成2年後期、平成3年前期は春の時期なので花の冠を製作する。)

以上の活動は領域「環境」のねらいの該当内容として《(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。(3)自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。(4)身近な動植物に親しみをもって接し、いたわったり大切にしたりする》に当たる。

また、ねらいのうち《(6)身近な物を使って考えたり試したりするなどして遊ぶ》に該当する内容として、次のような活動や実習を行った。

- ・ハネカエルおもちゃ—厚紙と輪ゴムを用いて、ぴよんと飛び跳ねるおもちゃの製作。できるだけ高く飛ぶ工夫をさせる、あるいは競争させる。
- ・空き缶による遊び—輪ゴムのおもりをつけた空き缶による遊び、空き缶による笛、空き缶をつないでその上に板を乗せ、さらに人が乗って動かすなど。
- ・牛乳パックによる遊び—牛乳パックによるいろいろなおもちゃの製作、電車、エレベーター、お家などを作って遊ぶ。
- ・発泡スチロール細工—トイレットペーパーの芯に、乾電池2個と割り箸で簡単な発泡スチロール切り器を製作し、動物園やあやつり人形などを作る。

学生に対する評価は、製作した作品、製作中の意欲や態度、附属幼稚園見学による幼児と環境との関わりに関するレポートなどを得点化し評価した。

3 実施結果と考察

講義・実習の終了後、アンケート調査を実施した。調査内容を資料2に、その結果を図1～3に示す。

図1は、講義内容の満足度を聞いたもので、「とても満足した」「まあ満足した」を合わせ、90%の学生が満足し

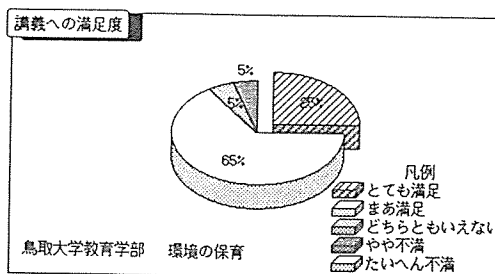


図1 講義への満足度

ている。「どちらともいえない」が5%、「やや不満」としたもの5%で、「たいへん不満」としたものはなかった。「やや不満」としたものの中には、製作や実習がほとんどで、講義が少なすぎるとした学生がいた。前半の講義で、幼稚園教育のねらいや幼児の発達などについて講義をしたが、後半は実習のために時間をとられ、十分講義ができなかったのが原因と考えられる。

図2は、製作活動の満足度を尋ねたもので、97%の学生が楽しかったと答えている。「あまり楽しくない」、「全く楽しくない」としたものはなかった。実際に、学生の様子も、短時間にも関わらず極めて熱心に取り組んでいた。

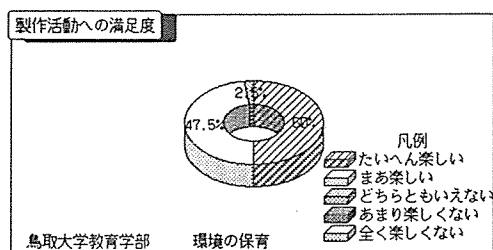


図2 製作活動への満足度

図3は具体的な実習内容について、どの活動や製作が楽しかったかを尋ねた結果で、最も評判が良かったのが、「附属幼稚園での観察実習」であった。その理由としては、幼児と直接接することができ、一緒に遊んだり話したりして、貴重な体験であったためとしている。この観察実習では、それまでに教室で講義・実習したことを具体的に子どもに適用し、おもちゃなどの使い方やその限界などが理解できたものとする。

その次が「落葉の造形」で、学生自ら学内の落葉を集めながら自然とふれあいをもったのがよいとしていた。

3番目は「発泡スチロール細工」で、その理由として、発泡スチロールがすいすい切れることが新発見だったからとか、いろいろ楽しみながら創作できたからという意見があった。

楽しくなかった活動としては「発泡スチロール細工」、「ダンゴムシと遊ぶ」、「空かんのおもちゃ」などがあった。発泡スチロール細工では、「臭いがいや」「思うような作品ができない」などがあり、ダンゴムシについては、「汚い」とか「気持ち悪い」といった学生の反応がみられた。また、直接手で触れることを避け、割り箸でつかむ学生もみられた。

授業全体の感想についての結果は次の通りである。

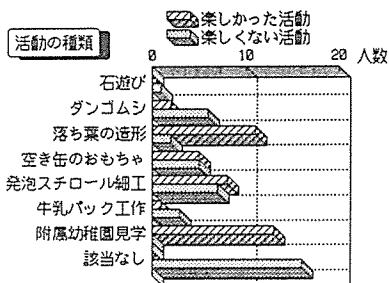


図3 製作実習内容に関する好悪

(1) 肯定的意見

- ① 「私自身が創造力が乏しく、何かを作成することがとても苦手でした。でも、このような講義でやったことが、実際子どもたちにやってあげたらいいと思いました。附属幼稚園での観察実習は直接子どもたちと接して、いっしょに外で駆け回り、いっしょに何かを作り出すということができて、子どもの創造力、元気さ、純粋さを改めて感じました。」
- ② 「私は小学校教員志望ですが、幼児期の子どもの興味や関心について新たな発見があったのでとてもためになったと思います。」
- ③ 「身近な素材についての基礎的な知識が得られたと思う。」「既製ではなく心のこもった手作りのおもちゃは大変いいものだと思います。」
- ④ 「このように密度の濃い授業は大学にきてはじめてだったので毎回充実していたと思います。」「大学の講義はだいたい先生が話をして、一方的に終わるものなので、実践できたのはとても良かったと思う。」「1週間でとても楽しみな授業でした。」

このうち、①と②は、附属幼稚園での観察実習がとても良かったことを述べており、③は身近な素材で作ったことに感心しており、④は、この講義内容全体が充実していたことを述べたものと考えられる。

(2) 否定的意見

- ① 「講義というよりも工作演習のようだった。」
 - ② 「準備が大変であったが、それらを使って、作品を作ったりしたのはとても良かったです。特に発泡スチロール、空き缶で遊ぶのが印象に残っています。もう少し講義的な内容があっても良かったと思います。」
- ①の意見は、この学生が大学における講義のみの受け身の授業を経験し続けてきたために、かえって製作実習ばかりだと不安に思えてきたため、このような感想をもったのではないかと考える。②も同様である。

大学における授業が、指導者の一方的講義によるものが大半を占めている現状では、学生のこのような反応は当然といえなくもない。しかし、これからの教員養成においては、個性ある子どもを育てたり、創造性豊かな子どもを育てるような教師が望まれており、単に座学的な講義をするだけでなく、対話や製作、実習、観察など多様な授業形態を取り入れる必要があると考える。

4 おわりに

今日の学生は自然体験が不足しており、動植物への親しみや身近なものへの理解がきわめて乏しいように思われる。この講義では難しい理論は避け、できるだけ体を直接動かして、自然に触れ、環境と自分や幼児の関わりについて考えさせた。特に、自分たちが製作したものが実際の子どもに使えるかどうか幼稚園に持って行かせたが、幼児はかなりの興味を示したことをレポートにまとめている。受講した学生は必ずしも幼稚園教諭を希望していないが、小学校児童への教育にもこれらの経験が生かされるものとする。今後さらに身近な環境と幼児の関わりについて、よく理解できるように講義・実習内容を改善していきたい。

参考文献

- 1) 文部省：「幼稚園教育要領」, 1989年
- 2) 野角計宏他：「幼稚園教育要領の解説」, ぎょうせい, 1990
- 3) 奥井智久編：「環境」—理論編—三晃書房, 1990
- 4) 松井公男：新幼稚園教育要領とピアジェ理論, 明治図書, 1990
- 5) 矢田貝公昭：直接体験不足症候群の子どもたち, 汐文社, 1991
- 6) 山内昭道：新幼児教育法シリーズ—環境—, 東京書籍, 1990
- 7) よしだきみまる：あきカンでつくろう, 福音館, かがくのとも206号5, 1986
- 8) 猪原通正：パクトゥザ・フューチャー, 京都書院, 1991
- 9) 木内勝：工作図鑑—作って遊ぼう—, 福音館, 1988
- 10) 降旗勝信監修：理科工作動くおもちゃ, 小学館, 1981
- 11) 広島県理科教育センター編：学習意欲を高める理科の指導, 理科教育資料102, 1984

資料1

環境の保育 指導計画			
平成3年度			
指導のねらい：幼稚園領域「環境」の自然や物に関わる内容について、基礎的な知識や技能を身につけ、幼稚園において幼児の指導ができる力を養成する。			
テキスト：幼稚園教育要領 他プリント 参考書			
水曜1限 杉本			
回	実施期日	講義内容	実習内容
1	4/10	イントロダクション —環境の基礎—	ハネカエルおもちゃ
2	4/17	概念形成と自然への親しみ —幼児の発達と自然環境—	熱帯魚用敷石による遊び カイワレ大根の栽培
3	4/24	動物・植物教材の取り扱い —栽培・飼育の基礎—	ムシと遊ぶ 草花による遊びや造形
4	5/1	「身近な物」教材の取り扱い1 —素材の収集と分類—	プラスチック容器や空き缶による遊び, こいのぼりづくり
5	5/8	「身近な物」教材の取り扱い2 —素材の加工と工夫—	牛乳パックや段ボールのおもちゃ作り, うごくおもちゃ
6	5/15	数・図形教材の取り扱い —発泡スチロール加工—	発泡スチロール切り口の製作 と発泡スチロール加工
7	5/22	付属幼稚園での幼児の観察	幼児と環境とのかわり に関するレポート作成
8	5/29	まとめ —小学校生活科との関連—	レポートによる面接・討論

資料2

環境の保育(1) 担当 杉本
事後アンケート

以下のアンケートは成績にはまったく関係ありません。思ったことを遠慮なく記してください。選択肢は当てはまる数字を()に記入してください。

- 1 講義内容は満足できましたか。()
①かなり不満 ②やや不満 ③どちらともいえない ④満足 ⑤かなり満足
- 2 製作や活動内容は全体として楽しかったですか。()
①全く楽しくない ②あまり楽しくない ③どちらでもない ④まあ楽しかった ⑤大変楽しかった
- 3 最も楽しかった活動は何ですか。()
また、その理由は何ですか。()
- 4 最も楽しくない活動は何ですか。()
その理由は何ですか。()
- 5 分りにくかった講義内容や活動は何ですか。()
- 6 例えば、このような活動や内容があったら良かったと思われることがありましたらお教え下さい。()
- 7 付属幼稚園での観察実習について強く印象に残ったことがあれば記してください。()
- 8 全体としての感想をお書き下さい。

.....
.....
.....

資料3 学生の作品と実習風景，附属幼稚園での実習

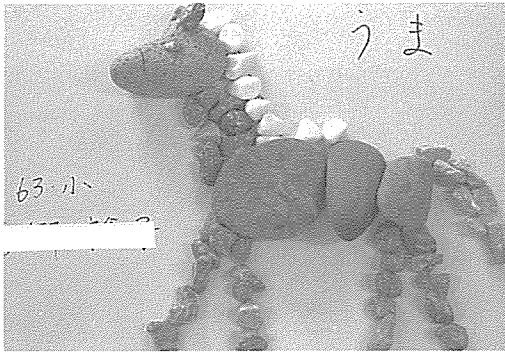


写真1 熱帯魚用敷石による造形1「うま」

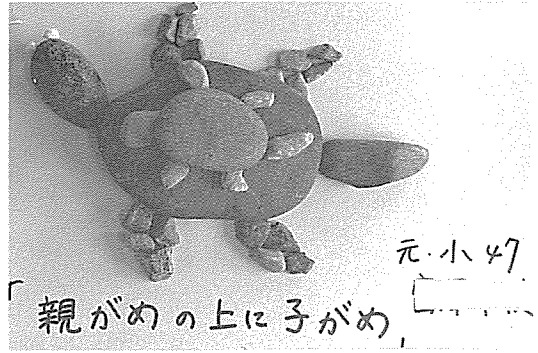


写真2 熱帯魚用敷石による造形2「かめ」

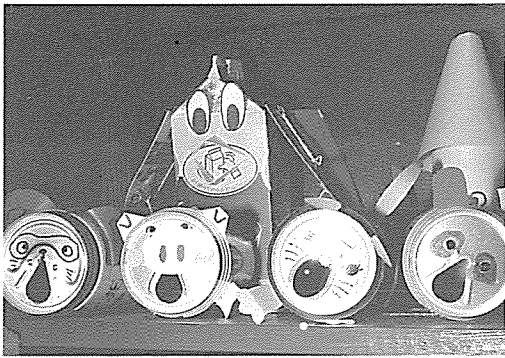


写真3 空き缶のおもちゃ

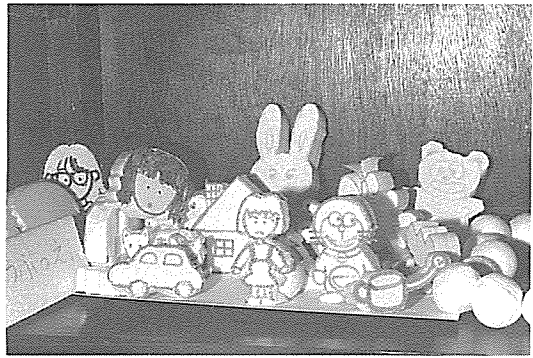


写真4 発泡スチロール細工による作品

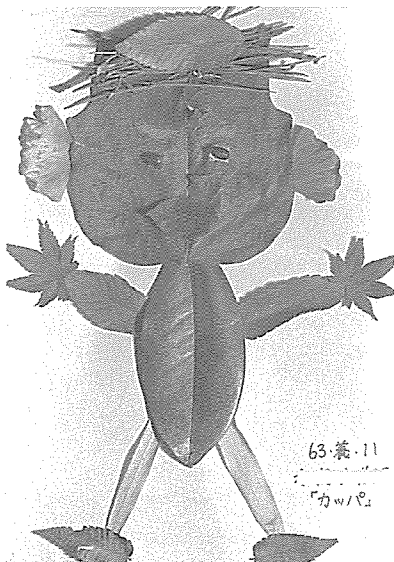


写真5 落ち葉による造形1「カッパ」



写真6 落ち葉による造形2「きつね」



写真7 授業での実習・製作風景1
(牛乳パックによるおもちゃ)



写真8 授業での実習・製作風景2
(同左)



写真9 花の冠1

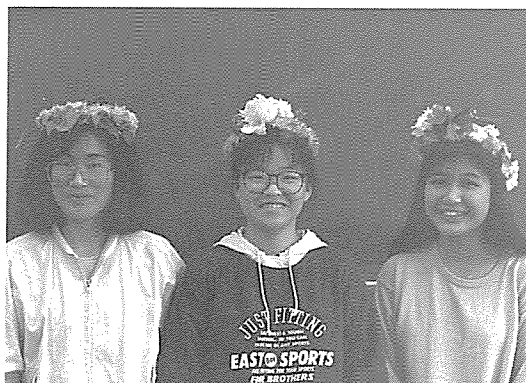


写真10 花の冠2



写真11 附属幼稚園での実習風景1

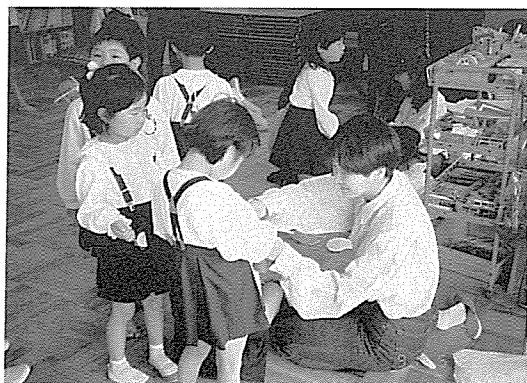


写真12 附属幼稚園での実習風景2

Abstract

In new kindergarten course of study, it is emphasized to do as the basis through the environment. Moreover, the following three points are emphasized in relation to this basis.

- ① Suitable life at the infant period must be developed.
- ② The aim is made to be achieved overall by centering on playing.
- ③ Guidance, by which an individual characteristic of the infant is made the best use of, is done.

In the teacher training at the university, it is important for developing of the infant to be able to do the appropriate guidance immediately done and help. For that, it is necessary to devise the teaching method.

In this research, practical teaching, to which not only the lecture but also various class forms such as the handwork, the observations, and the practice, was attempted.

As a result, the student of 90 percent was satisfied about the content of the lecture. The satisfaction degree of the handwork activity was answered that the student of 97 percent was happy and fun. Actually, the student was working ardently regardless of a short time. Especially it was an observation practice in the attached kindergarten that reputation was the best.

The class of the university can say the student in the current state to which the one by a one-sided lecture occupies majority. However, a unique child is brought up and the teacher, who brings up abundant creative children, is hoped for in the future teacher training.

I think that it is necessary to take various class forms such as the conversation, the handwork, the observations, and the practice.